

会 議 録				
平成22年度第1回 社会教育委員の会議	日 時	平成22年4月21日(水) 午前9時30分～11時30分	場 所	小金井市役所第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員 その他 事務局	伊藤、浦野、倉持、小林、樹、田尻、中村、本多、本川、吉池 各委員 向井教育長、渡辺生涯学習部長、尾崎生涯学習課長、宮腰スポーツ振興 担当課長、田中図書館長、大関公民館長 林生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 協議事項				
(1) 平成22年度視察研修について				
(2) 平成22年度小委員会について				
(3) 科学の祭典への出展について				
(4) 平成22年度スポーツ関係団体への補助金交付について				
(5) その他				
2. 報告事項				
(1) 都市社連協第2回理事会について				
(2) 第5回小委員会について				
(3) 三者代表者会議について				
(4) 平成22年度予算概要について				
(5) 平成22年度第1回議会報告				
(6) 社会教育関係団体の登録について				
(7) 文化財センター企画展について				
(8) 図書館臨時休館について				
(9) 図書館サービスの拡充について				
(10) 図書館講演会の結果報告について				
(11) (仮称)貫井北町地域センターについて				
<p>・教育長挨拶 (向井教育長)</p> <p>今日はお集まりいただきありがとうございます。新年度第1回目ということで、一言私のほうからごあいさつさせていただきたい。今年度は生涯学習部としては新しい事業が充実しており、1つ目として、小金井市史編さんがあげられる。大綱の見直しを行い、計画の見直しをして、今年度から具体的な現代、近代史の編さん作業に入るとい</p>				

とで、目標としては市政55周年の発刊を目指して努力していきたいということである。

2つ目であるが、皆様に大変愛されている玉川上水・名勝小金井桜を復活させるというプロジェクトを立ち上げている。これは東京都の計画がある。これと市の小金井桜の復活というのをすり合わせて、10年間で何とか復活したいということで進めているところである。これを何で生涯学習がこれをやっているのかと、時々疑問に思われる方もいるが、普通、桜というと環境じゃないかと思われると思うが、これは実はいろいろな背景があり、名勝、史跡を復活するということの観点が実はポイントで、自然の再生というのとはまたちょっと違う観点で進んでいる。ただ、やはり環境部の協力がなければ進められない。従って、プロジェクトという形で幾つかの課が力を合わせてこれやっというということである。その中心、もしくは窓口となっているのが生涯学習ということになるので、どうぞご理解のほうもよろしくお願ひしたいと思う。

3点目が、今までも皆さんのお力を得ながら進めてきた放課後子ども教室。地域、保護者、それから学校、それぞれのご協力を得ながら進めてまいった。今年度も、この活動をさらに充実したいと思っている。年々、少しずつであるが、確実に広がっているの、この動きをさらに推進していきたいと思っているところである。

4点目であるが、貫井北町地域センターの基本設計が今年始まる。形が見えてきたと思っている。今まで何年も、何十年も、なかなか姿が見えない。計画だけがあって幻の施設だったが、やっとこれがおぼろげながら姿が見えてきたということで、地域の方々中心に、大変期待も高まっているところである。緑町の仮出張消防署の移転は何年であったか。

(渡辺生涯学習部長)

24年の8月。

(向井教育長)

24年に取り壊される予定で、その後建設工事を始めるという考えである。これからいろいろなところでその計画等についてもお話しする機会があると思うので、ぜひまたご意見をいただきたいと思う。

それから最後に、スポーツ振興の関係である。日ごろから市民体育祭等を中心に、広く市民にスポーツを楽しんでいただき、スポーツ人口を広げたいという気持ちでやってまいった。体育協会、各種団体等にもいろいろご協力をお願いしながら、例えば指導者の育成、関係団体のスポーツ団体の育成にも力を注いできたつもりである。5点についてお話を申し上げたが、皆様方の目線、豊富な知識を背景に、ぜひ積極にご意見を頂戴したいなと思っている。やはり市民に広く喜んでいただくのが生涯学習活動の基本だと思うので、事務局側では分からない、色々なご意見が、私たちの支えということであるので、また今年1年、よろしくお願ひしたいと思う。実はたくさんほかにもやっているのだが、今日は5点ほど挙げさせていただいた。どうぞよろしく

願います。

・平成22年4月1日付人事異動について

(渡辺生涯学習部長)

では、私から、平成22年4月1日付で人事異動があったので、その件について報告をさせていただきます。

今回、報告するのは、課長職者と、社会教育委員の会議の事務局担当者ということに限定をさせていただきます。スポーツ振興担当課長、林文男が会計課長として出向した。後任として、市民部納税課長の宮腰誠がスポーツ振興担当課長に転任の上、配置をされている。事務局である生涯学習課の職員、木村逸子が子ども家庭部子育て支援課に出向し、後任に福祉保健部地域福祉課から林健太郎が転任の上、生涯学習部生涯学習課に配置をされた。以上である。よろしく願います。

(宮腰スポーツ担当課長)

4月1日付でスポーツ振興担当課長を拝命した宮腰誠である。今まで税部門におり、その前は児童青少年課で児童館の職員をやっていた。教育委員会は今回が初めてである。よろしく願います。

(向井教育長)

陸上のフルマラソンをやる選手である。

(宮腰スポーツ担当課長)

よろしく願います。(拍手)

事務局(木村)

4月1日付で子育て支援課の手当助成係のほうに異動になった。この生涯学習課で、社会教育委員の担当としてお仕事をさせていただいて丸4年であったが、非常に委員さんたちに支えていただきながらお仕事をさせていただいた4年間だったとおもっている。また、子育て支援課のほうでも、これまで以上に頑張っていきたいと思っているので、今後もいろいろとお世話になることがあるかと思うが、どうぞよろしく願います。ありがとう。(拍手)

(向井教育長)

大変明るく盛り上げてくれた職員であるので、ちょっと惜しいなと思っているが、向こうで頑張ってくれ。

事務局(林)

林健太郎である。宮腰課長と同じく、もともと児童館にいて、その後、地域福祉課で生活保護の仕事をしていた。ここに来て、一生懸命頑張るので、皆さん、どうぞよろしく願います。(拍手)

(本川議長)

挨拶ありがとう。私は今年の9月から、社会教育委員の会議の議長をやらせていただいている。本当に皆さんのお力をおかりしながら、社会教育委員はもちろんのこと

であるが、事務方の生涯学習課の方々には大変、お力をおかりしなければ会議もうまくいかない状態であるが、前任の木村さん、本当にご苦労さまであった。ありがとう。本当に明るい、いい形でいけたのではないかと思っている。よく何でもきちんとしていただいて、私どもは大変助かった。第5ブロックのほうでいろいろお話を承っているときに、なるべく担当者は長くいてほしいという、どこの市もそういう要望があって、もうちょっといていただければと思っていたのだが、それは仕方がないので、あちらで頑張ってください、私どもは感謝をもって送り出したいと思っている。新任の宮腰さん、それから林さん、よろしく願います。

それから今、向井先生のお話にあった仮称の貫井北町地域センター建設市民検討委員会、社会教育のほうからも1人、委員を出させておいておる。

(向井教育長)

ありがとう。ぜひよろしく願います。

(本川議長)

前期から引き継いでおる地域教育会議のときも、私たちのような、あるいは社会教育は器がない、机もないというような状態にいるので、その辺のところも含めて、社会教育委員の会議では検討させていただき、いろいろ考えさせていただいておる。また、そういうことでの実現になっていけばいいなと思っはおるので、どうぞご理解いただき、よろしく願いたいと思う。

(向井教育長)

大変お世話になるが、よろしく願います。

(本川議長)

それでは、平成22年度もスムーズに会が進むように、皆様どうぞよろしくご協力願います。

(向井教育長)

では、これで失礼する。

(本川議長)

ありがとう、協議事項に入る前に、資料の確認をする。

(尾崎生涯学習課長)

三鷹市の市民協働センター視察に関する資料である。科学の祭典の2009報告書、社連協第2回理事会次第、「生涯学習部歳出H22年当初予算H21年当初予算比較」、それと「生涯学習部図書館平成22年度予算説明資料」、次に「社会教育関係団体(平成21年4月～平成22年3月)」、それと「図書館新サービス水準」、「(仮称)貫井北町地域センター建設に伴う事業計画及びスケジュール(案)」、「社教連会報No.66」、「みんなの生涯学習No.99」、平成22年度社会教育委員の会議の日程表、これが事前に配られているものだと伺っておる。本日追加で配布した資料は、「平成22年度スポーツ関係団体への補助金交付一覧」、「平成22年度スポーツ振興係事業一覧」、「三者懇談会代表者打ち合わせ(報告)」以上である。以上が資料配付である。

1. 協議事項

(1) 平成22年度視察研修について

(本川議長)

それでは、協議事項に入る。(1) 平成22年度視察研修について。これは、前回から三鷹の市民協働センターに見学に行きたいということで、事務局のほうでいろいろ資料をそろえていただいている。皆様のほうに事前に資料は届いているかと思うが、見学するのに当たり、有料である。伺ったら、この会議としてもそういう予算はとっていないので、参加するのであれば何らかの方法を考えなければいけないということが1つと、それから公民館運営審議会の方もできたら一緒に行きたいというお話がある。そうすれば、人数が多くなるかなということである。その2点について、ご検討いただきたいと思う。何かご意見のある方。何か補足あるか。

(尾崎生涯学習課長)

今の視察の費用であるが、人数によって若干金額は違うけれども、10名前後だと8,000円という金額がかかるということで、市として予算組みをしていないので、もし三鷹の協働センターを視察したいということであれば、参加者でご負担を均等割りにしていただいて、参加していただくことになろうかと思う。それも併せてご検討いただければと思う。

(本川議長)

それではまずは、視察を実行したいというご意見の方、いらっしゃるか。

(伊藤副議長)

ぜひ、私は行ってみたいと思う。

(本川議長)

伊藤委員からは、実行したいというご意見である。ほかには。

(中村委員)

私も。

(本川議長)

はい、中村委員も。

(本多委員)

はい。

(本川議長)

実行したいという意見が多数のように思うが、お諮りしたいと思う。見学に行くことに賛成の方。(全員挙手)

本川議長

ありがとうございます。全員一致で実行させていただくということである。それに付随して、公民館運営審議会の方が一緒に行ってみみたいということをおっしゃっておったが、これはもちろん個人的なところでの話であるが、仮にそういう場合は、同行していただいても構わないとお思いの方は、挙手していただけるか。(賛成者挙手)

(本川議長)

では皆さん構わないということですので、すり合わせをさせていただく。実現するかどうかは日程のこともあると思うが。

(樹委員)

視察の交通費についてはどうなるのか。

(渡辺生涯学習部長)

事前に場所がある程度決まっている場合は、鉄道で行く場合については交通費を組む。今は借り上げのマイクロバスを使うことが多い。その場合は、高速道路代などは事前に組ませていただく。ただ、そのためにやっぱり秋ぐらいに、来年どこ行きたいかが決まっていないと、組みようがないというのが実態である。であるので、今回は特に組んでいないということである。

(樹委員)

今回は交通費も組んでいないと。

(渡辺生涯学習部長)

今回は無料のマイクロバスで行く予定ということである。

(本川議長)

日程については5月19日の第三水曜日が一応予定に組み込まれてはおる。

(尾崎生涯学習課長)

視察の日程と場所は決まったら、三鷹の方では、できればどういう内容の視察をするかという、その辺をあらかじめこういうことをしたいということを事前に知らせて欲しいということがあるようなので、その辺をご検討いただけるか。

(伊藤副議長)

先進市で、市民協働活動のモデルとしていいのではないかと。

(本川議長)

伊藤委員のほうから、三鷹の市民協働センターを視察したいという希望だというご説明をいただいた。ありがとう。

(本川議長)

これは、市民センターの準備をするという話のときに、このような話が出たと思う。

(伊藤副議長)

視察内容、今すぐこれは決めなきゃならないか。

(尾崎生涯学習課長)

視察先からそのような要望があり、次回の会議が視察になるのでこの場である程度は。

(伊藤副議長)

市長部局では、市民活動協働センター立ち上げのために、今、準備している。構想的には、こちらの生涯学習課、社会教育委員のほうでも考えている地域教育会議とも

一部一致するところがあるのだが、あちらは主としてボランティア活動だけではないとおっしゃっておられるが、基本的にそういった福祉を中心とした市民の活動の立ち上げかなという理解はしているのだが、そうすると、文化とか教育とかスポーツとかも総括的に包含した市民協働センターみたいなものを持っていくには、どこか先進例がないかなということ、三鷹でそういうことをやっているなという話になった。

それで一応、1点目は立ち上げに至るまでの経緯を知りたいと思う。一度にそんなに手広く全部はできないと思う。だから最初、一番どういう部分から取りかかっていたのかということ。立ち上げと経過というかステップどういう順番で1つ1つネットワークづくりをしていったのかと。

その2点ぐらいを重点的に聞きすれば、そんなにたくさん聞いても、正直まだ活動する拠点も何も今ない状態ではとも思って、その2点ぐらいかなと考えているのだが。また、委員の方々の中でご意見があれば、またおっしゃっていただいて、見学内容に網羅したいと思うけれども、その場合、当初はそういう発想だったわけである。

(本川議長)

ありがとう。

(伊藤副議長)

何か委員の方々に、もっとうい部分をとちょっとという、ご意見があったらおっしゃっていただいて、見学内容に盛り込んでいきたいと思う。

(本川議長)

そもそもは地域のネットワークづくり、それから地域教育会議の推進に向けての足掛かりとして、実際にセンターを立ち上げているところの、今、伊藤委員がおっしゃったような経過をたどりながら考える1つの手段にしていきたいということがきっかけだったと思う。ほかに何かあれば、事務局のほうに、こんなことを聞いてみたい、あんなことを聞いてみたいというのをここで少し集約していただいて、当日に向かうということであれば、この次でも間に合うかなとは思いますが。もちろん今ここで出してもらっても構わない。

(吉池委員)

結局、研修であるので、あくまでも勉強である。小金井で、先進市としても三鷹の勉強をして、それを具体化につなげるとなると、非常に具体的な拠点の問題等、難しい面もあるかと思うので、社会教育委員が一定水準の勉強をして、何か行政が具体化するときに、参考の意見を言える準備をしておくということであれば、先方が全部資料をそろえてくれていると思う。その資料がいつか小金井に役立つことがあるというあたりでいいのかと。今あまりはっきりした目的を求めても、つらいものがあるかと思う。

(本川議長)

吉池委員からそのようなお話をいただいた。ほかの方、いかがであるか。

(中村委員)

今、吉池委員がおっしゃったように、概論的なお話も重要だと思うけれども、利用実態ということで、市民がどういう活動のために市民協働センターを利用されているか、その利用実態である。どういう活動に利用されているか。その辺と、あともちろんカウントはされていると思うのであるが、利用実績等々、基礎的なことであるが、その辺を質問してみたらと思う。

(本川議長)

ありがとう。何かあるか。

(浦野委員)

私としては、市と市民団体とのコーディネーターの役割をされているのではないかという期待があるので、その点についてどういう位置付けというか、役割をされているのかを聞きたいなと思っている。

(本川議長)

ありがとう。ほかに。

(倉持委員)

私も今浦野委員がおっしゃったことをまさに言おうと思っていた。地域会議とか、地域のネットワークということ、社会教育委員の会議では議論してきたと思うので、公民館のこと等、小金井市と状況が必ずしも一致しないというか、その部分を、どちらがいいとか悪いとかというのではなくて、市民と行政の協働がどのように進んでいるのか。あるいは市民の中で各種団体のネットワークというのは、どんなふうコーディネートされているか、ハードの面でだけでなくソフトの面も聞きたいと思っているので、そういうのがテーマで、あるいはどういうコーディネートの仕掛けというか、間をつなぐネットワークづくりの仕掛けをどういうふうになさっているのかということをお聞きしたいなと思う。

(本川議長)

ほかにご意見、何かあるか。ないようなら、今、一定のあがったかと思うが、それを含めた形であちらにお話ししておいていただけるか。

(尾崎生涯学習課長)

はい。わかった。

(本川議長)

1つだけ取り上げても、何時間もかかってしまいそうな感じもしないでもないのだが、資料があれば。

(伊藤副議長)

一応、ここに書いてあるのは、向こうで一方的に、この3つの項目はもう予約なのか。メニューとして説明するという事になっている。これに3つほど書いてある、施設見学の案内とその説明、それから三鷹市の市民参加と協働のまちづくりの説明、市民協働センターの事業及び協働の運営の説明。これは一応、向こうのセットメニューであるね。

(尾崎生涯学習課長)

そうである。

(伊藤副議長)

これで大体は網羅できるだろうと思う。

(本川議長)

その中で、特にこのところは絶対に聞いておきたいということを皆様の中で考えていただければと思う。お話を聞いているうちに、それって何だろうみたいなところも出てくるかと思うので。じゃ、事務局のほうでよろしく願います。

(尾崎生涯学習課長)

日程的には19日ということによろしいか。

(本川議長)

19日が、皆様の中では入っているかと思うのだが、いかがか。

(尾崎生涯学習課長)

現時点の三鷹との確認では、19日はとりあえずあいているということであるので、決まればその日でセッティングはできると思う。あと、公運審の方にもお聞きしなくてはいけないが、今日の時点でどの程度の方が参加できそうかというのが、わかれば教えていただきたい。人数がある程度読めれば。

(本川議長)

時間は午前中によろしいか。

(事務局)

先方は午前、午後ともあいている。

(尾崎生涯学習課長)

今の段階では、向こうは午前でも午後でもよろしいということなので、こちらの都合でよろしいかと思うが。

(本川議長)

皆様は、定例会ということで午前中を予定されているのではないかと思うが。

(尾崎生涯学習課長)

例えば、小金井に9時ぐらいに集合するような予定でよろしいか。

(本川議長)

ありがとう。皆様、では、それによろしいか。話を進めておいていただければと思う。よろしく願います。

(尾崎生涯学習課長)

承知した。

(本川議長)

今の(1)について、何かあるか。なければ(2)に進みたいと思う。

(渡辺生涯学習部長)

議長、その当日19日行財政改革特別委員会があり、私と図書館長、公民館長、そ

れからスポーツ振興担当課長は委員会に出席したいと思う。生涯学習課長は視察に行くということで、よろしく願います。

(本川議長)

尾崎課長、ご迷惑をかけるが、よろしく願います。

(2) 平成22年度小委員会について

(本川議長)

それでは、(2) 平成22年度小委員会について、昨年度は5回開催して、平成21年度の委員は伊藤委員、浦野委員、小林委員、中村委員、私ということでさせていただいていた。いろいろ話し合いをして、具体的なことも見えて、このように進めていったらいいだろうかみたいなところであったが、後ほど第5回目の報告をさせていただくが、平成22年度はまた新しく委員を選んでもよろしいかなと思っておるので、参加してもよいという方がいらっしゃったら挙手をお願いしたいと思う。年間5回である。

(本川議長)

昨年度は第2水曜日に当てさせていただいていた。第2水曜日の午前中。この曜日については皆様のご都合をお伺いすることは可能である。どなたか挙手を。みんなで勉強していくことなので、どなたでも大丈夫である。

(吉池委員)

まずは継続でお願いしたいというのが基本。

(本川議長)

話し合って皆様にも逐次ご報告させていただいておるけれども、地域ネットワークづくりに向けてということで、こんな方法はどうだろう、あんな方法はどうだろう、こんなこと、今、情報として入っているというようなことの話合いなので、どうだろうか。特に継続しなければいけないようなことというのは。この本会議に必ず戻っていているので、どの方がなられても特に支障はないだろうと私は思っている。

(吉池委員)

いや、個人的には継続、5人残って継続で、どうしてもご都合とかがあって変わられる方がいらっしゃれば、ほかの方から補充をすればいいという決め方でもしないと、ちょっと。

(本川議長)

はい。それでは個人的な意見になるが、ここから出ている、出向している方は何回か会議があるわけである。それで、ほかの方よりは忙しい、それで一緒に会議に入るというのを、2倍ぐらいになってしまうのか。なので、その辺のところも考慮していきたいなというふうには思っている。遠慮なさらずに手を挙げてくださるとありがたいのだけれども。具体的に幾つか、図書館に浦野委員、貫井北町地域センターに中村委員が入っている。

(本川議長)

ここから他の委員会に行っておられる方は時間をそれなりにとられているのではというのもある、広く皆様にも、お声を生かされたいという気持ちもある。少し概要がわかってらっしゃるかなと思うので、どうぞご遠慮なく。

(浦野委員)

そういう意味では、私も図書館協議会のほうに出向させていただいておるので、できたらまた新しい委員の方に小委員会に入っていただいて、いろいろなご意見なり情報なども提供していただいたほうが、内容としても充実するし、できたら新しい方に来ていただいて。

(本川議長)

全部一遍にぱっと変わってしまうのもまた大変かと思うので。そして、次年度の、次の23年度の9月まではまた私どもも任期として継続するわけであるから、その部分も考えるということも可能かなと。全員でやりたいというのがあったが、ご承知のとおり5名ということで決められているので、倉持さん、田尻さん、吉池さん。

(樹委員)

やらせていただく。

(吉池委員)

私は、体育協会のほうがものすごいプロジェクトがいっぱいあって、公益法人化とか、財政健全化とか。手いっぱいなものだから。

(樹委員)

水曜じゃなくても。

(本川議長)

決まってはいない。調整は可能。

(本川議長)

倉持委員曜日の調整ができれば可能か。

(倉持委員)

はい。

(本川議長)

では、今年度22年度は伊藤さん、樹さん、本多さん、倉持さん、本川ということでやらせていただく。

(伊藤副議長)

貫井のセンターができ上がるのはいつだったか。10年先？

(渡辺生涯学習部長)

平成26年4月開館予定である。

(伊藤副議長)

最終的にでき上がって、事業がスタートするのは。

(渡辺生涯学習部長)

26年4月である。

(伊藤副議長)

平成22年。あと4年か。4年ということになると、この作業ステップどおりに進めていかないと間に合わないということだな。

(本川議長)

間に合うか間に合わないかというのは、ちょっとわからない。

(伊藤副議長)

それがちょっと心配なのである。仮に小委員会とかこの委員会で決めても、水を差すようなことで申しわけないのだが、行政としてこの方向に持っていくという機運が、こういうのができ上がれば、行政は支援して、そのセンターをうまく軌道に乗せようという、そういう行政のバックアップが当然あるという前提で進めてよろしいのであろうか。

(渡辺生涯学習部長)

後で議題として出てくるが、説明をさせていただくが、(仮称)貫井北町地域センターについては小金井市で4番目の地域センターで、1つ目が貫井南センター、2つ目が東センター、3つ目が緑センター、これに続く4つ目の地域センターを作るという計画で、第2次基本構想からずっと課題になっていたものである。施設としては公民館、図書館、その他青少年施設ということで限定をされているので、その中に生涯学習センター機能を盛り込むだとか、あるいは地域包括センターを盛り込むだとか、そういうことは考えていない。あくまでも図書館、公民館機能を中心として、その中に青少年の居場所程度のものを併せ持つ機能を持った施設ということで考えている。以上である。

(本川議長)

そこら辺のところは図書館、公民館、それから生涯学習、社会教育ということの中で話をしていける可能性はあるかなということ。

(渡辺生涯学習部長)

申しわけない。今言った施設内容については、計画として限定されているので、それ以外に施設を入れるということは検討対象としては無理だというふうに議会でも答弁しているし、そういう計画になっているので、そこだけは前提条件として踏まえていただきたいと思います。

(3) 科学の祭典への出展について

(本川議長)

科学の祭典への出展に進む。昨年、有志ということで、科学の祭典にブースを出させていただいた。今年度は、出展については皆様賛成ということで了解していただいたが、有志という形で今年もしていくのか、社会教育委員の会議として出展するかご意見をいただきたいと思います。伊藤さん、お話いただけるか。伊藤さんが責任者として

やっていたので、お願いします。

(伊藤副議長)

去年は欲張って、出展内容を2つ出した。1つは、社会教育委員の活動そのものをPRしようと、前年度に第2次生涯学習推進計画を立ち上げ、作り上げたものだから、その紹介と併せて一昨年実施した第5ブロックの研修会の内容をパネル展示して、一方で科学の祭典ということで、手づくりのいろいろな実験用具をつかって、子供たちに体験させた。

その実験内容は、6ページ。No.12のブースのところに書いてある。これを見ていただければ、ここに出展内容がずっと書いてあるので、それをごらんいただきたいと思う。おかげさまで、見学される方は、まあ場所がよかったということもあり、非常に常に混雑していて、結局、小さいお子さん方も楽しんでた。特におもしろかったのがビー玉を弾いた実験。楕円形の、焦点が2つあって、かならずビー玉を弾くともう1つの焦点に必ず当たるよという、単純な遊びなのだが、結構子供たちは興味を持って見ていた。

あと、光の三原色の実験は子どもたちが触るものだから、せっかくセットしたのに動いてしまうのである。ばらばらになってしまって、光のとんでもないほうに行ってしまった。でも、私としては一生懸命頑張った。ハニカム構造といって、蜂の巣の構造が、物体の中で四角いものと三角のもの、六角形の中どれが一番強いかという実験をやった。

(本川議長)

社会教育委員の会議が、この小委員会のご報告でも皆様のお手元に行っているかと思うが、「社会教育委員って何をしているの？」みたいなことがあり、そういうのは中で聞こえてきたりもしていたので、何をやっているか、見ていただくのもいいのではないかということから出発した。それに子供たちが楽しめるよということ、伊藤委員が今のようなものをしてくださったということである。

ブースは、非常に子供たちがたくさん集まってくれて、いろいろ展示方法はあるかと思うが、出た意義というのはあったのではないかという、小委員会では話が出ている。第5回の小委員会の報告を先にしていないので、申しわけない、前後してしまっただが、「子供たちに限らず保護者の方も足をとめてくれ、世代を越えた学習の場、社会教育委員の会が参加できたということは非常に有意義だったと思う」というようなご感想も委員の中からはいただいているので、今年度どうするかということをご検討いただきたいと思う。ご意見をお願いします。とりあえず、今のようなことでよろしいか。

(田尻委員)

去年は有志であるか。

(本川議長)

はい。

(本川議長)

ローテーションを組みながら、自分はこの時間なら行ける時間を担当した。第2次生涯学習推進計画のダイジェスト版を配布した。他市からも、厚いのがあったらくださいということもあったので。

(伊藤副議長)

小平からなんかは、まだ自分のところで計画がないので、そんな話もあった。

(田尻委員)

私も当日は行っていたのだが、子供たちの作品があったので。その後、ちょっと寄らせていただいた。

(本川議長)

丸1日なので、出られる時間があれば顔を出してというようなことで、去年は本当に伊藤委員におんぶに抱っこだった。方法とかはこれからいろいろここで考えていけばいいと思うし、社会教育の、本体の説明を去年はパネルで、第5ブロック研修会でやったことをパネル展示した。その前で伊藤委員が今のようなことをしておられたと。時間的に忙しいとか、そういうことは抜きにして、生涯学習の実現の場所として科学の祭典自体が色々な意味で大変いい場所であると考えさせてもらっている。それでは、諮らせていただく。

(樹委員)

具体的な日にちは確認していないのだが、9月12日(日)になる。

(本川議長)

全員がご都合悪い方も出てということでもないので、名称として有志で出すか会議として出すかということでご検討を。どちらかであるので、二者択一にさせていただきます。有志で出たほうがいいと。

はい。ありがとうございます。それでは、会として出たほうがよいと思われる方。

半数を超えるのだが、伊藤さんは手を挙げたか。

(伊藤副議長)

挙げなかった。

(本川議長)

挙げなかったか。強制してはいけないのだが。

(伊藤副議長)

会となると重い。展示をどうするかという問題もある。

(本川議長)

私の考え方は、去年と同じでも全く構わないと思っている。変えなければいけない理由が何もないので、ここはベースになっていく。もちろんそこを少しアレンジしたりすることは可能だと思うが、昨年一度したが、何か不都合なことがあるかということで、生涯学習課にお尋ねさせていただいた。これには特に支障はないということだったが、その再確認であるが、会議として出ても問題ないか。

(尾崎生涯学習課長)

特段支障は無い。

(本川議長)

お手伝いしながら、自分たちも楽しみながら参加できるというのがベストだと思っている。

(本川議長)

もし、何か参加するのに何か科学実験をしたいということであれば、あまり伊藤さんにご負担かけないようにも考えていただければ。

(伊藤副議長)

5つぐらいは出せる。今考えているのは、水は高いほうから低いほうに流れる。逆に流れないのかというのをちょっと。低いほうから高いほうに水が流れたらすごいと思って、それに挑戦してみようかと。

(本川議長)

では確認である。今年度は会として参加するということで、私どものほうで進めさせていただきます。

(4) 平成22年度スポーツ関係団体への補助金交付について

(本川議長)

では平成22年度スポーツ関係団体への補助金交付についてということで、これは資料の説明をお願いします。

(宮腰スポーツ担当課長)

平成22年度スポーツ関係団体への補助金交付について、ご意見があったらご意見を出していただきたいと思います。今年度の補助金については、財団法人小金井市体育協会と特定非営利活動法人黄金井倶楽部の2団体から交付申請があった。

補助金については、それぞれの団体への補助金交付要綱に基づき交付しており、団体に対して運営経費を補助することによりスポーツ振興を図ることを目的としている。補助対象となるのは、団体の管理運営に係る経費と各種スポーツ事業に要する経費で、予算の範囲で交付することとしている。

本市としては、各団体からの交付申請に係る書類を審査し、事業目的、内容が適切と認められることから補助金を交付するものであり、各団体への交付金額は、資料としてお配りしてある平成22年度スポーツ関係団体への補助金交付一覧のとおりである。なお、補助金交付については、社会教育法第13条に、補助金を交付しようとする場合は、あらかじめ社会教育委員の会議の意見を聞いて行う旨の規定がある。そのことから、補助金交付に当たって、本日この場で社会教育委員の皆様のご意見聞くものである。よろしくをお願いします。

(本川議長)

ご説明ありがとうございます。この件について、何かご質問はあるか。

(吉池委員)

よろしいか。体協から来ているので説明させていただく。ここにおける924万2,100円という交付額であるが、これは補助金という形であるけれども、この内訳というのは、事務局経費が、昨年度であると1,052万からかかっているところである。これは、3人の正職の給与、そして、加盟団体の共催事業といって34団体、野球、サッカー、剣道、バスケット、すべての競技が入っているが、そこが年間ずっといろいろな大会等の事業を続けているのであるが、そのうちの1事業ないし2事業に対して、少々の補助金を出しているのが共催している。実際上は加盟団体というのは何千万もお金を出して、すべての団体では動いている。そのうち220万ぐらいを、この補助金の924万の中から出しているものである。

あと、いろいろなスポーツ少年団とか中体連とかある。簡単に言うと、事務局経費の中の本給以外の通勤手当、法定福利、社会保険制度を数年前から導入したのであるが、それに対する事業主負担分とか消耗品、通信、備品、会計事務所への報酬等、税金まですべて体育協会の自腹になっている状態なものであるから、非常に厳しい話が現在あって、今年度は200万円ぐらい赤字になるであろうと言われている。

ここの部分に関しては、この金額だけ見ると相当な金額が出ているとお見受けできるかもしれないが、今後、体育協会としては行政と、体育協会というのはいつできたかという、財団法人化のときというのは市がつくったもので財団法人化したもので、3カ年に分けて500万円の市の補助金が出て、残りの全額を市民と市内の事業体から出していただいて作ったのが現在の財団法人の体育協会である。であるから、そういう意味合いにおいては、すべて全額市民が出してつくった団体なのである。

そういう状況の流れの中でいくと、現在、市民の健康増進の中心を担っている状態、今非常に危機的状況になっており、この部分は今後行政と話し合いをするということである。であるから、先ほど仕事の面で委員会のとときに「財政健全化」という言葉を私が言ったが、公益法人化も財団法人法の一部改正で公益法人か一般財団法人かに分ける、一応、公益財団法人を目指しているのであるが、ここの赤字団体が公益財団法人なんて認可されないの、今せっぱ詰まっている状態であるので、今年度は相当厳しい話し合いを行政とすることになろうかと思う。一応、予備知識としてこういう状況を説明させていただく。

(本川議長)

ほかに。中村委員。

(中村委員)

3点お尋ねしたいことがある。

まず1つが、なぜこの2団体にだけ交付されるのか、これが1つ。それから、交付額の金額が書いておられるけれども、去年との対比においてどういう内容になっているかが1つ。それからもう1点は、例えば交付額924万2,100円、あるいは222万の算出根拠、いわゆる明細、何に対してどれだけのお金を利用されるか、この3点についてお教えいただければ幸いである。よろしく願います。

(渡辺生涯学習部長)

私のほうでお答えさせていただく。スポーツ団体は種々ある。財団法人小金井市体育協会というのは、各スポーツ団体、それぞれ連盟をつくっているが、それらをまとめている団体ということが1つ。それから、黄金井倶楽部については、文科省の施策として、地域に総合型のスポーツクラブをつくるということで発展して、現在、活躍していただいている団体である。この2つの団体に限ることで、ほとんどのスポーツ団体はこのどちらかに加盟している、あるいは2つ加盟しているという状況がある。そういったことで、市としては、この2つの団体にスポーツ行政の大半をお願いしているということが実態であるので、新たにまた別の団体、そういう団体ができれば交付団体としては認定されると思うが、現時点ではこの2つが市としては認定している団体ということである。

それから、去年と今年との予算であるが、たしか差はない、増減はほとんどないはずである。

(吉池委員)

黄金井倶楽部は増えているのではないかと思うが。

(渡辺生涯学習部長)

委託費は多少増えているところはあるけれども、この補助金に関して変化はない。私は細かい予算の資料を今持っていないのですまない。あともう一点、何であったか。

(中村委員)

明細である。この金額の、何に幾らか。

(渡辺生涯学習部長)

明細は、先ほど、吉池委員からご説明していただいたけれども、主に人件費の補てんをしている。それぞれの団体が、先ほど体協は3人とか、黄金井倶楽部も人を雇っている。そういった人件費に対する補助が大部分である。ということで、明細は次回、資料としてお出しする。そのほうが間違いないと思うので。

(中村委員)

ありがとう。

(5)その他

(本川議長)

では、その他何かあるか。

(尾崎生涯学習課長)

教育委員との懇談会が年1回、5月、6月程度にやっているのであるが、また今年も教育委員との懇談会を持ったほうがいいのか、その辺をご検討いただきたいと思っている。

(本川議長)

尾崎課長からもう1つあった、昨年同様に教育委員との懇談が必要か。何かご意見

はあるか。なければ、実施のほうに賛成の方。(賛成者挙手)

(本川議長)

その方向で検討させていただきたいと思う。

(尾崎生涯学習課長)

日程については、教育委員との調整もあるので改めて調整させていただいてご報告させていただく。基本的には、教育委員会があった後の時間帯という形になるかと思うので、この辺はご了承いただきたいと思う。

(本川議長)

そのほかで何かあるか。

(渡辺生涯学習部長)

前回の会議で宿題になっていた社会教育委員の会議の会議録の市報掲載について、中村委員からこういうことができないだろうかということで、私のほうで宿題とさせていただいていた。私ども、3月29日に広報秘書課に確認して、結論としては物理的に困難だということで、ただ提言など、新たなものが出されれば、周知の必要なものについては今後協議したいという話なのである。要は駄目であるという話であるが、その理由として、現在、市では、こういった会議、審議会、協議会、これが全部で55ある。それから、新たにできるものが8つあって、全部で63抱えている。これが最低限、年数回やるわけで、それを全部載せるということは極端な話であるけれども、ある程度、この会議を載せてこの会議を載せないというわけにいかなくなると、みんなが載せろとなったときに紙面がパンクしてしまう。現状でもかなり厳しいという状況があるので、この辺については広報ではなくて、これは今、資料室のほうに公開をしている。現時点では広報掲載については困難ということでご報告させていただく。

(本川議長)

中村委員、それでよろしいか。

(中村委員)

はい、結構である。

2. 報告事項

(1) 都市社連協第2回理事会について

(本川議長)

都市社連協第2回理事会について。資料にあるが、平成22年3月19日金曜日に行われた。内容について書いてあるとおりである。事業計画・予算、決算もそのとおりで承認された。この間、私が出席させていただいた。やはり年度が、私どもは9月から9月までだが、市によっては4月から新しいメンバーになり、交代するのでわからないとかいうところも何件かあって、そこは引き継ぎさせていただきたいということが出たりしていた。いろいろな会期があるだということがわかったし、統一はされていない、各市に任されているということであった。簡単な報告であるけれども、統一

テーマとしては、社会教育が支える地域教育の創造ということで、家庭、学校、地域による新たな社会教育を目指してというのが入っている。

(浦野委員)

4月17日に総会があったので報告する。配っていただいたので詳しいことは資料を読んで頂きたい。出席したのは本川委員と吉池委員と本多委員と中村委員、小林委員、浦野である。事務局のほうは、尾崎課長と林さんが来た。前半の総会については、こちらを読んでいただきたい。後半の基調講演は国立教育政策研究所から岩崎氏による社会教育が支える地域教育の創造について「家庭、学校、地域の連携による新たな社会教育を目指す」という主題で講演された。この講演がとてもいい内容であった。私は個人的な疑問だった、なぜ地域といったときに小学校区がイメージされるのかというのが、すごく疑問であった、ひっかかるところであったのであるけれども、やはり東京都の場合は地域をイメージするときには学校区、特に小学校区をイメージして、具体的に、町会とか、そういった人間としての繋がりや地域としてのイメージはあるけれども、やはり目に見えるような形のあるもののほうがイメージしやすいということが、新たにわかったので、とてもいい講演であった。小委員会でも地域ネットワークに向けてということで話し合っているけれども、その中で学校運営連絡委員、この講師の方は外部評価をする人ということでお話をされていた、学校運営連絡委員のメンバーとして社会教育の人間が入っていくのはとてもいいことではないかということも、実際にあったこととお話をされていたので、ご自分も外部評価の人間として学校とかかわっていたということをお話されたので、そういったこともすごく私たちが今、話し合っていることに対して勇気づけをいただいたように思う。とてもいい講演でよかったと思う。以上である。

(本川議長)

ありがとう。何かご質問はあるか。今回は総会ということで、ご都合の悪い方もあったわけであるけれども、なるべく出ていただきたい。講演などいろいろなお話も伺えるし、一生懸命やっていることについて、また新たな思いも出てくるかと思うので、できるだけご参加できるように考えていただけたらと思う。よろしく願います。浦野さん、ありがとう。

(2) 第5回小委員会について

(本川議長)

第5回小委員会について、私のほうから報告させていただく。三鷹市の先ほど出た市民協働センターについて見てみたいというようなことが話し合いの中で出た。

各団体のバックボーンのある先生方のような方もいらっしゃるのと、それから生涯学習というのは本当にいろいろな分野があるので、顔が見えるような形で、いろいろな関係する団体が集まってもらってネットワークづくりも推進していけるのではないかという話も出た。体育協会、文化連盟、文化協会、PTA関係、環境団体、読書

読み聞かせ団体、民間企業、地域の方々、町内会、子供会等、顔を合わせながらいろいろなことが話し合えないであろうかということである。

科学の祭典についての出展のことが出たということである。社会教育だけではなくて、公民館とか図書館も科学の祭典に声かけてみたらどうだろうなんてことも出た。三者懇談の折にそんなお話も出せるのではないかということである。何か補足あったら。先ほどの協議のほうで、この件についてはいろいろお話し合いをさせていただいているので、この場は報告のみとさせていただく。

(3) 三者代表者会議について

(本川議長)

皆様に報告資料を配らせていただいた。図書館協議会の松尾会長と公民館運営審議会の大橋委員長、社会教育委員の本川が参加した。協議事項について、テーマについてそれぞれが書いてある、図書館では「家庭・学校・地域の教育力を高め、その連携が進むように支援する」ということである。特に今、貫井北町地域センターについて、そのあり方などを具体的な方針として話し合いたいということであった。公民館は、生涯学習情報システム構築が話題として上っている。図書館協議会や公運審は、教育委員との懇談会がないので、そのような場を設けて情報交換、情報の共有化を図りたいということが話の中で出ていた。

社会教育委員の会議としては「地域ネットワークづくりに向けて」ということで、さっき言ったキーステーションとしてのスペースを公民館機能の中でという意味もあったのだが、設けられないかということ投げかけてみた。5月11日の火曜日に三者懇談会をさせていただくように、皆さんにもご案内が行ったかと思う。会議のテーマとしては、「生涯学習推進のための地域ネットワークづくり」ということで、これは三者で協議した結果である。

場所は小金井市役所本庁舎第一会議室。実施形式としては、自己紹介で大体が終わってしまうと大変もったいないということで、グループディスカッションにしてみたらどうだろうと。最初の30分でテーマの概要を説明して、その後3グループに分かれディスカッションをして、フリートークという形で本当に全員発言ができる形にということで、そのようにやってみようということである。そして最後に、グループでまとめたものをみんなで共有できたらいいのではないかと話をしていただいた。何か質問はあるか。

(伊藤副議長)

実施形式のところで、最初の30分間の概要説明は、もう決まっておるのか。説明が入るかということは、これから決まるのか。

(本川議長)

決まってはいない。

(伊藤副議長)

そうではなくて、三者懇談会の当番はここであろう。

(本川議長)

今回は社会教育の当番なので、社会教育から説明することにはなっている。その中でどなたにさせていただくかは決めていない。あまり細かいことを言う必要もないと思っている。何かそのほかに質問はあるか。なければ実りある懇談会になればいいと思う。では、(4) 22年度予算概要について、お願いします。

(4) 22年度予算概要について

(渡辺生涯学習部長)

資料「生涯学習部歳出H22当初予算H21当初予算比較」にそって市の22年度予算の概況について説明をさせていただきます。

1つは、税収の減がある。平成21年、22年両年度合わせて、その前年の20年度に比べると10.4億の税収減がある。これは市税の減収7億、譲与税等が4億落ち込んでいる状況がある。これを埋めるために、今年度は財政調整基金、これはどんなものでも使えるという基金であるが、21億あったが10億円を取り崩して残り11億ということで、10億円をここから調達した。臨時財政対策債、国でいう赤字国債。これを限度額いっぱい15億円を借りて、過去の一般会計の最大規模である400億円を超える予算を初めて組んでいる。予算は413億超である。前年度に比べると、約2割近い増になっている。内訳としては、増要因は3つある。1つは、市民交流センターの取得費、ごみ処理施設の解体費用、子ども手当である。

それでは22年度の、先ほどの資料に基づいて、生涯学習部の概略を説明する。

まず上から5行目になるが、社会教育活動に要する経費、備考欄に中近東歴史文化講座運営委託料が記載されている。これは新規事業で、三鷹にある中近東文化センターとの連携事業で、新たな事業を開始する。事業詳細についてはまだ決まっていないので、決まり次第またご連絡をすることがあるかと思う。次に、青少年育成事業に要する経費の中で、心身障害児の学校外活動、主にプール活動だが19万ほど増額した。

市史編さん活動に要する経費。これは先ほど教育長から説明があったが、平成20年の市制50周年を期に、市史編さんの取り組みを開始している。平成21年10月7日に小金井市の市史編さん大綱の年次計画を決定・追加して、平成25年の市制55周年、平成30年の市制60周年に合わせて、通史2巻、資料編5巻を刊行するという計画の22年度が初年度になる。ここから10年間、市史編さんに向けてかなり活発な活動を行うようになる。放課後子どもプランに要する経費は、昨年比べて安全管理員を増員するために61万9,000円ほど増額をしている。この予算は、国が3分の1、都が3分の1の補助金で、3分の2が補助金で賄える。

次に公民館事業である。公民館維持管理に要する経費。備考欄の貫井南センターエレベーター設置工事設計委託料、南センターにエレベーターをつける設計を開始する。これができれば、翌年に設置ということになる。本町分館の、東京都で行う耐震工事

に遅れが出て、本来は21年度で設計を行って、22年度に改修という予定であったが、設計、改修とも、22年度に同時に行う形で予算が繰り延べされている。成人教育事業に要する経費。ここでは市長会の10分の10の補助金をいただき、新規事業として公民館で3つほど事業を行う。備考欄に書いてある①地域コミュニティーセンター施設研究講座、②団塊世代地域デビュー講座、③高齢者の生きがい講座、補助金で賄う事業ということで、新規事業として挙げている。最後の11番。(仮称)貫井北町地域センター建設に関する経費で、これは新規事業になる。内容は22年度に市民検討委員会において、基本設計を行う内容である。スケジュールは後ほど報告のほうで説明するので、この程度にとどめさせていただく。

図書館であるが、一番上の図書館事業に要する経費。新規読み聞かせ講演会105万円とある。これは文字・活字文化振興法という法律が策定されてから5周年に当たり、今年度は国民読書年とされている。これを受けて読み聞かせ講演会を開催する105万円の新規事業を組んでいる。まちづくり交付金という事業の中の1つで、補助事業としてやる。備品購入費で図書標本等△245万3,000円となっているが、これは今回の予算の厳しい編成作業の中で、全庁的に備品はゼロ査定という影響を受け、図書館の図書購入費も減額されたということである。

文化財保護費については一番下、名勝小金井(サクラ)復活プロジェクトに要する経費で新たな事業を開始する。昨年の21年8月に東京都水道局が史跡玉川上水整備活用計画を策定した。市もこれを好機と捉え、桜の復活事業に取り組む為、学習会、市民懇談会等々の予算がつけられている。

少年自然の家経費の中で、維持管理に要する経費であるが、清里山荘の外壁の改修工事が新たに付けられている。

スポーツ振興課については、体育施設費、小金井テニスコート場維持管理に要する経費。テニスコート場は、本来であると21、22年度で、6面を整備し完了という予定であったが、東京都の水道施設が地下に構築されている。地下に構築されている水道施設の耐震工事を行う必要がある。それが終わるまでは3面分のコート整備は延伸せざるを得ない。平成24年、あるいは25年に耐震工事が完了した後に3面の整備を行うということで、計画が延伸をされている。全体に予算的には大きな動きはないが、平成25年に東京多摩国体が開催されるので、その準備が今年度から本格化する。先ほど中村委員から質問のあった補助金関係であるが、その上の段の保健体育総務費の中に「6負担金・補助金」という項目がある。先ほど説明した体育協会と、黄金井倶楽部への補助金の予算になる。60万ほど減っている。これは主に体育協会の職員が臨時職員になった関係で、その分の金額が下がったと。黄金井倶楽部は野川駅伝を実施しているが、参加費が高すぎるという声が20年に上がり、不要事業を削って、その分で若干の上積みをした。補足として説明させていただく。予算については、以上とさせていただく。

(本川議長)

ありがとう。何か質問はあるか。

(吉池委員)

吉池である。ちょっと比較になるが、貫井南センターのエレベーター設置工事設計委託料、これは工事費ではなくて、設計委託料。648万9,000円で、貫井北地域センターの基本設計が1,114万であるか。

(大関公民館長)

1,114万は、新検討委員の委員謝礼も含めてあるので、基本設計について、北町に関しては1,026万である。

(吉池委員)

それは理解できるのだが、そんなにかかるものか。

(大関公民館長)

こちらはエレベーターをつけることにより、児童館等のスペースが一部減るので、増築も含めての設計予算になっている。

(吉池委員)

わかった。

(本川議長)

ほかにあるか。

(田尻委員)

少年自然の家の外壁改修工事は、今年度に工事を完了することなのか。

(渡辺生涯学習部長)

今年度に完成する予定で進めている。

(田尻委員)

時期的には、今年度も一応夏休みに各学校が、ここを使うのだが。

(渡辺生涯学習部長)

利用には影響のないよう、かつ冬になると工事はできないので、時期を見計らって不便のないようにやりたいと思っている。

(吉池委員)

名勝小金井(サクラ)の復活プロジェクトなのだが、少々聞いているところによると、樫を全部切るという話で、桜の保存ということで日照の問題とかいろいろ事情を聞いているのだが、そういう方向性だけは明確になっているのか。

(尾崎生涯学習課長)

全部切るというよりも、雑木は切るということなのだが、であるから、残すものは多少残るということも今考えているところで、やり方についてはまだはっきりとは決まっていないが、かなり大胆には雑木は切るという方向で、名勝小金井(サクラ)を生かすための整備をさせていただくということになる。

(5) 22年度第1回議会報告

(本川議長)

22年度第1回議会報告をお願いします。

(渡辺生涯学習部長)

平成22年第1回定例会に出された一般質問について、項目だけ説明をする。

露口議員から産経新聞社『ここまでわかってきた 日本人の起源』という本では、「日本列島に確実に人類が存在したとされる最古の年代は、4万年から3万5000年前。小金井市の西之台・中山谷の両遺跡では、3万5000年以前の地層から石器が出土。現時点では日本最古と紹介されている。建築行政と遺跡の発掘について問う」というのが1つ。もう一つは「貫井北町センターの建設について問う」と。中身は、地域包括支援センターや市民協働支援センター等、地域での必要な施設を仮称貫井北町地域センター建設計画の中に盛り込んで、計画よりもう少し大きな施設を建設しないかという質問であった。武井議員のほうからも貫井北町センターの建設に関して、1つは「小金井西地域包括支援センター及びデイサービス施設等を追加しないか」、2つ目として「市民協働支援センター開設の際は、同センターを追加してはどうか」。小林議員からは、公民館の利用について、1点目は「公民館の事業者に対する安全対策を確認する」、2点目は「公民館の利用方法について」。

2月28日に日曜議会が開かれた。その中で田頭議員から生涯学習分野と学校教育における市民協働について。1として「市民協働、公民館連携を推進するための社会教育、生涯学習のあり方をどう考えるか」が出されている。遠藤議員から、「小金井桜の桜並木復活のため、小金井市玉川上水・小金井桜整備活用計画を策定し、平成22年度を新たに名勝小金井桜復活プロジェクトとして、東京都や市民団体と協働して事業等を図っていく方針であるが、決意のほどをお聞かせください」との質問が出された。以上である。

(本川議長)

何か質問はあるか。

(吉池委員)

どのような答弁をしたのだろうか。

(渡辺生涯学習部長)

答弁については正確を期したいと思うので、議事録を見ていただきたいと思うのだが、地域センターは計画としては、社会教育施設を入れるのだということである。その中に、あれを入れていただきたい、これを入れていただきたいということであると、これはもう收拾がつかないということもある。敷地の問題もある。敷地に北一会館が建っている。中間処理場の迷惑施設の還元施設という意味合いで建っている。今回は、今までの計画の範囲内の2,000平米程度の建物であれば、西側の敷地、あるいは南側を使えば建てられるということなので始めている。大きくして、あれもこれもつけてという複合施設は、我々にはできないとお答えはしている。正確には議事録を読んでい

ただきたい。

(本川議長)

何かほかにあるか。時間がなくなってきた。すまないが、10分ばかり延ばしていただいてもよろしいか。

(6) 社会教育関係団体の登録について

(尾崎生涯学習課長)

資料をごらんいただきたいと思います。平成21年度中に追加申請のあった小金井市社会教育関係団体の登録について報告申し上げます。今回、登録していただいている社会教育団体については、小金井市社会教育関係団体登録要綱第5条の規定に基づき、平成21年度から平成23年度末までの間が有効期間となる。平成21年度当初に登録した団体が、91団体であった。その後に登録申請をした団体がこの表にある17団体で、同要綱の第2条の登録基準の規定に適合するか否かを審査した結果、全ての団体が規定に適合すると判断したため、社会教育関係団体として承認し、申請団体には登録する旨の通知をしたところである。このことにより、現段階での登録団体数は108団体となっている。以上のとおり承認したので、同要綱第4条第3項の規定に基づき、報告をさせていただきます。よろしくご承認いただきたいと思います。

以上である。

(本川議長)

ありがとう。何か質問はあるか。中村委員、どうぞ。

(中村委員)

これら登録された団体に対しては、補助金が出るのか。それとも登録された事実だけなのか。

(尾崎生涯学習課長)

補助金とは直接は関係ない。

(中村委員)

ありがとう。

(本川議長)

ほかに質問はないか。

(田尻委員)

ここの緑町第四町会という団体は、本校の学区内の町会なのだが、他に町会は登録をしているということはあるのか。

(尾崎生涯学習課長)

他に町会の登録は無いが、社会教育活動をしていて、適合すれば登録は可能である。

(7) 文化財センター企画展について

(尾崎生涯学習課長)

季節展として、「小金井桜名所から名勝、そして復活へ」と、今、生涯学習課が進めている名勝小金井桜復活に向けてアピールするような季節展を行っている。もし時間があれば一度ご覧いただきたい。簡単だが、以上である。

(8) 図書館の臨時休館について、お願いします。

(田中図書館長)

図書館の電算システムの更新入れかえのため、平成22年5月6日木曜日から5月12日水曜日まで、全館臨時休館する。現在の図書館電算システムは、昭島市の図書館との共同利用型図書館として5年の長期契約をしているが、平成22年4月末をもって、契約期限が切れる。それに伴い共同利用をしていた昭島市図書館との協議に基づき、再度、昭島市との共同利用型図書館システムとして平成27年4月末まで新システムで運用を行うものである。

(9) 図書館サービスの拡充について

(田中図書館長)

図書館サービスの拡充について報告する。図書館電算システムの更新入れかえに伴い、お手元に資料をお配りした図書館新サービス水準があるが。こういった内容にサービス水準の見直しを図る。貸し出しであるが、CDの貸し出し期間が拡大2週間になっているが、従来は1週間であった。貸し出し点数について、5タイトルになっているが、従来は3タイトルであった。次に予約であるが、図書の予約について、在架予約、CD予約とか、これは拡大になっているが、これまでは本の貸し出し中であつたものは予約ができたのだが、本棚にあつたものについて予約ができなかった。これについて予約ができるようにした。CDの予約についてもこれまでは予約ができなかったが、予約ができるようにした。利用者登録であるが、パスワード登録を今までご自身で入れていたのだが、これについては自動で、こちらで入れて後で変えていただくというシステムに変えた。それからOPACからの自館検索可能とは、利用者用の検索機のことであるが、これこまで、例えば本館で見たときには、全館検索となってしまう。それを、本館とか緑分室とか絞って見るように変えさせていただいた。図書館のサービス水準については以上になる。

(本川議長)

(8) と (9) について何かご質問あるか。なければ (10) 図書館講演会の結果報告について、お願いします。

(10) 図書館講演会結果報告について

(田中図書館長)

図書館講演会早春寄席の結果について報告する。図書館では、毎年1回図書館利用の促進を図るため、図書館行事として講演会などを実施している。平成21年度につ

いては、3月12日の午後1時から、図書館本館地下集会室にて、市内在住の日本落語協会会員の真打ち、吉原朝馬師匠をお招きし、「早春寄席」と名付けて開催をした。参加者42名だが、今回は落語という内容で、視覚に障害のある方を優先に案内をさせていただき、17名の参加をいただいた。なお、実施に当たり、障害福祉課からは、送迎車のサービス券、同行のガイドボランティアを案内補助として小金井市対面朗読の会6人の協力もいただいた。講演内容については、落語の演目2つと合間に、図書館ハンディキャップサービスの紹介をさせていただいた。なお、この期間、1階のテーマ物コーナーは落語関係図書を展示した。昨日、小金井市対面朗読の会との年度の初めに当たっての挨拶、協議というのがあり、その中でこの事業について非常に良かったので、22年度についてもこういったことができないかという話をいただいた。報告については以上になる。

(11) (仮称) 貫井北町地域センターについて

(大関公民館長)

(仮称) 貫井北町地域センターについて、冒頭教育長から、また、部長から先ほど説明があったが、改めて簡単に報告する。昨年10月から今年の3月まで庁内検討委員会を計5回行い、今年度から具体的に動き出すので、簡単にご報告させていただく。資料をごらんいただきたいと思う。まず施設の概要だが、延べ床面積、2,000平米の建物で、収容施設は公民館を500平米、図書館を600平米、青少年施設(中高生の居場所等)を50平米と考えている。設計者選考委員会を4月から6月、基本設計市民検討委員会を今年の7月から来年の3月、開館は平成26年4月を目指している。社会教育委員の会議からは(仮称)小金井市貫井北町地域センター建設市民検討委員会の委員になってもらっている。詳細は資料を見て欲しい。以上である。

以上